

8 「めざそう値」の達成度等の点検評価

「那覇市立図書館」運営の基本的な考え方の点検評価基準（別紙3）に基づき、「施策（事務事業）の進行管理チェックシート」（別紙4-（1）（2）参照）を活用して、「めざそう（目標）値」の達成度や評価の観点ごとの点数・コメント及び総合評価点数等を踏まえて、那覇市立図書館協議会委員で外部評価した。

点検評価事務事業（2021年度分）

課 題	施策名 (チェックシート)	事務事業名	指標名
Ⅰ-1 利用者サービスの充実	【1】Ⅰ-1-(1) 資料・情報提供サービスの充実	1. 資料・情報提供サービスの推進	①来館者数（来館率） ※1人当たりの年間来館数
			②レファレンス（調査相談）件数
Ⅰ-2 青少年に対するサービスの充実	【2】Ⅰ-2-(1) 中学生・高校生の読書活動の充実	2. 中学生・高校生の読書活動の推進	③中学生・高校生向けの企画実施件数
Ⅰ-3 障がい者サービスの充実	【3】Ⅰ-3-(1) 障がい者サービス用資料の充実	3. 障がい者サービス用資料の貸出の推進	④デジター図書貸出数
			⑤大活字本貸出数
			⑥朗読CD貸出数
Ⅱ-1 多種多様な市民ニーズに対応できる人材の採用・育成	【4】Ⅱ-1-(1) 図書館職員研修の充実	4. 図書館職員研修の実施及び各種研修への参加	⑦研修会への参加人数（参加件数）
	【5】Ⅱ-1-(2) 図書館職員体制の充実	5. 図書館職員体制強化の推進	⑧職員の司書有資格者数
Ⅵ-1 読書推進のための学習機会の充実	【6】Ⅵ-1(2) 職場体験等（小中高）の受入	8. 職場体験等（小中高）の受入の推進	⑨職場体験等（小中高）の受入件数

施策（事務事業）の進捗管理チェックシート【Ⅰ】 指標①②

点検評価の対象年度		令和 3 年度			別紙 4-(Ⅰ)			
課 題		Ⅰ-Ⅰ 利用者サービスの充実			主管 部課	教育委員会		
施 策 名		Ⅰ-Ⅰ-(Ⅰ) 資料・情報提供サービスの充実				生涯学習部 中央図書館		
事務事業名		Ⅰ. 資料・情報提供サービスの推進						
施策（事務事業）	施策の概要等	公共図書館における利用者サービスを充実させるため、図書館奉仕の基本的なサービスである資料・情報提供サービスを推進する。 関係法令等 ○図書館法 〈第 3 条第 1 項第 1 号〉 郷土資料、地方行政資料、美術品、レコード及びフィルムの収集にも十分留意して、図書、記録、視聴覚教育の資料その他必要な資料（電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他の知覚によっては認識することができない方式で作られた記録をいう。）を含む。以下「図書館資料」という。）を収集し、一般公衆の利用に供すること。 〈第 3 条第 1 項第 3 号〉 図書館の職員が図書館資料について十分な知識を持ち、その利用のための相談に応ずるようにすること。 ○図書館の設置及び運営上の望ましい基準（平成 24 年文部科学省告示第 172 号） 第二（公立図書館）一（市町村立図書館）3（図書館サービス） （一）貸出サービス等 市町村立図書館は、貸出サービスの充実を図るとともに、予約制度や複写サービス等の運用により利用者の多様な資料要求に的確に応えるよう努めるものとする。 （二）情報サービス ① 市町村立図書館は、インターネット等や商用データベース等の活用にも留意しつつ、利用者の求めに応じ、資料の提供・紹介及び情報の提示等を行うレファレンスサービスの充実・高度化に努めるものとする。 ② 市町村立図書館は、図書館の利用案内、テーマ別の資料案内、資料検索システムの供用等のサービスの充実に努めるものとする。 ③ 市町村立図書館は、利用者がインターネット等の利用により外部の情報にアクセスできる環境の提供、利用者の求めに応じ、求める資料・情報にアクセスできる地域内外の機関等を紹介するレフェラルサービスの実施に努めるものとする。						
実際の成果・効果等		新型コロナウイルス感染者数の拡大により 5 月末頃から 9 月末までの臨時休館や一部利用制限期間があった影響で来館者数は前年度よりもさらに減少した。 レファレンス件数も前年度実績より、10%程度減少し目標値と大きく乖離した。 レファレンスは来館時に受けることが多いため、来館者減少の影響を強く受けたものと考えられる。						
事業に要した経費		令和 3 年度の図書館に関する決算額（正規職員の人件費を除く）……………181,245,245 円 うち図書資料費……………29,440,622 円 【新聞・雑誌等】……………6,015,772 円 【一般・児童・郷土・視聴覚資料】 23,424,850 円 うち図書館コンピュータシステム経費……………15,073,836 円						
・ 指標名・目標値 ・ 実績値	指標名	めざそう値	実績値	前年度 実績値	指標名	めざそう値	実績値	前年度 実績値
	①来館者数 （来館率）	476,800 (1.49)	213,536 (0.67)	250,228 (0.78)	②レファレンス （調査相談）件数	1,660	589	648

※来館率：市民一人当たり来館した回数

点検評価 (内部)	評価の観点	評価	総合 評価	内部評価コメント
	達成度	I	C	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため市立図書館を全館臨時休館や利用制限をしている期間が約3ヵ月半ほどあり、来館者数、レファレンス件数ともに目標値に達せず、前年度実績値も下回った。
	今後の方向性	4		臨時休館中も市民の学びたい、知りたいというニーズに応えることができるよう、電話等でレファレンスを受け付けした。今後も広報等を通じてレファレンスサービスについて周知していく。

別紙 4-(2)

点検評価 (外部)	評価の観点	評価	総合 評価	内部評価コメント
	達成度	I	C	・実績値が目標値に達しておらず、かつ前年度実績も下回っている。しかし、新型コロナウイルス感染症の蔓延、拡大防止のため全館臨時閉館や利用制限や市民の外出自粛がその理由として考えられる。やむを得ない事情の中で図書館として、レファレンスの電話等、コロナ禍でできることには対応しており、努力は認められる。 ・新型コロナウイルスの感染拡大防止に伴うサービスの制限があり、目標数値が達成できていなかった。想定外のことであったので、全体数よりも開館した時の一日当たりの人数など参考数値などがあればもう少しわかりやすかった ・新型コロナウイルス感染症の影響を受け、閉館や利用制限があったため目標値を下回ったことは致し方ないと思われる。 ・2年目のコロナ禍で色々な行政サービスなどが試行錯誤していく中、残念だけれど図書館の試みはあまり功を奏さなかったと評価。「巣ごもり消費」などの言葉が出てきたように、家での活動はある意味活発であった時期。読書に触れてもらう良い機会にできたと思う。 ・コロナ2年目ということで、with コロナの取り組みなど工夫がもっと取れたと考えられる。前年度実施していた予約・受け渡しすら制限していたという事情は考慮できるが、実施した工夫がなされていれば、2もしくは3の評価できた可能性がある。来館者数とレファレンス数は図書館の事業評価におけるもっとも重要な指標であり、優先的に取り組んでもらいたい。 ・特異な状況下においていかにサービスを提供するか試行錯誤が行われたと思うが、今後活かせる/活かせないといった評価や共有は行われているのか？
	今後の方向性	4		・電話でのレファレンスサービス、郵送による貸出等の遠隔でできるサービス等の更なる工夫が求められる。ウィズコロナの状況化ならではの図書館サービスの在り方を図書館関係者のみならず、市民から広くアイデアを募り創意工夫を図りたい。また、市や図書館のHPや広報誌等で周知を図ることは非常時や変則的な対応がなされる時であればなおさら力を入れていく必要があると考える。 ・提示された資料の中では方向性がうまく見えにくい。レファレンスだけでなく、基本的な情報提供についても触れられているとよかった。上記では取り上げられていない図書館法3条7号「時事に関する情報及び参考資料を紹介し、提供すること」というのが重要で、コロナ関連の情報をどれだけ住民に正しく伝えられたか、伝える努力をしたか、今後どう考えているかが知れたらよかった。 ・感染対策を十分取りつつではあるが閉館しない方向で利用者サービスを行っていただきたい。 ・閉館を余儀なくされるのであれば指標の見直しも必要ではないか。 ・すでに新型コロナウイルスの影響下にあった前年度をすべての月において下回ったのは、図書館離れが進行した(=図書館の生活におけるプライオリティが下がった)ためと思われる。同じ方向性では、あまり改善が

			期待できないため、てこ入れが必要と思う。 ・繰り返しとなるが、来館者数とレファレンス数は図書館の事業評価におけるもっとも重要な指標であり、優先的に取り組んでもらいたい。目指そう値についても、来館者数は増加方針を掲げている。コロナ対応で目標の下方修正などに取り組むことも含めて、コロナ禍で果たせる図書館の役割、存在感を示してもらいたい。 そもそもの施策と事業評価の設定について 課題として利用者サービスの「充実」を掲げる場合には、利用者の満足度などを調べることや、蔵書数を指標とすることも考えられる。本施策でこの指標を選択した理由と、目指そう値の設定根拠についても説明や言及は必要であり、次回以降の反映を求めたい。 例えば、来館者数の１人当たりの回数などで、国が示している数値を参考にしている／県内の市立図書館で上位を目指すなど、目標とした理由が説明できないと、達成可能な目標を設定しただけと指摘される可能性が生じる。 ・「これまで通り」が通用しないことが、「これまで」を見直し「これから」を考える機会になったと思う。私自身、いわゆるコロナ禍の間は、学校図書館においては児童生徒・教職員へのサービス提供のあり方を、非常勤講師としては大学生との関わり方を強制的に見直すことになり、結果従前よりも向上した手応えがある。市立図書館の今後に期待する。
--	--	--	--

施策（事務事業）の進捗管理チェックシート【2】 指標③

点検評価の対象年度		令和3年度		別紙 4-(1)		
課 題		I-2 青少年に対するサービスの充実		主管 部課	教育委員会	
施 策 名		I-2-(1) 中学生・高校生の読書活動の充実			生涯学習部 中央図書館	
事務事業名		2. 中学生・高校生の読書活動の推進				
施策 (事務事業)	施策の概要等	スマートフォンやインターネットの普及に伴い、中学生・高校生のヤングアダルト層の公共図書館離れが深刻になりつつあるなかで、活字に触れる機会を増やすとともに本を読む楽しさを再確認してもらえるよう、中学生・高校生の読書活動の充実を図る。				
		関係法令等 ○図書館の設置及び運営上の望ましい基準(平成24年文部科学省告示第172号) 第二(公立図書館)ー(市町村立図書館)3(図書館サービス) (四)利用者に対応したサービス ア(児童・青少年に対するサービス) 児童・青少年用図書の整備・提供、児童・青少年の読書活動を促進するための読み聞かせ等の実施、その保護者等を対象とした講座・展示会の実施、学校等の教育施設等との連携				
実際の成果・効果等		秋の読書週間企画：神原小学校・中学校コラボ企画。図書館ビンゴ、読書クイズ、子どもたちが書いたおすすめ本のPOPカードの掲示と紹介本の展示・貸出(中央図書館)。なは教育の日関連企画：首里中学校コラボ企画。生徒が作成したおすすめ本のPOPカードと紹介本を展示・貸出(首里図書館)。ヤングアダルトコーナーの紹介とおすすめ本の紹介・展示・貸出(若狭図書館)。なは教育の日関連企画：石嶺中学校コラボ企画。生徒が作成したおすすめ本のPOPカードと紹介本を展示・貸出(石嶺図書館)。展示スペースに足をとめる中学生やPOPカードを読んで借りていく若い世代の利用もあり、わずかではあるが利用促進につながるきっかけを作ることができた。				
事業に要した経費		図書館運営事業の行事用消耗品費				
値・実績値 指標名・目標	指標名			めざそう値	実績値	前年度実績値
	③中学生・高校生向けの企画実施件数			4	4	4
点検評価 (内部)	評価の観点	評価	総合評価	内部評価コメント		
	達成度	5	A	実績値が目標値に達した。 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため市立図書館を全館臨時休館している期間が夏休み期間と重なったため、中学生・高校生向けの夏休み企画を実施することができなかったが、秋の読書週間等と関連づけて、近隣の中学校と連携した取り組みを各館で実施した。		
	今後の方向性	4		年間を通して様々な機会をとらえ、中学生・高校生向けの企画を行い、若い世代の図書館利用促進に努めていく。 また、R3年度末に電子図書館を導入し、中学生・高校生向けの電子書籍等も揃えたので、今後は電子図書館の周知に取り組み、中高生の利用につなげる。		

点検評価 (外部)	評価の観点	評価	総合 評価	外部評価コメント
	達成度	5	A	・実績値が目標値に達しており、基準に基づき「5」の評価とした。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止による閉館により実施できなかった企画もあるにもかかわらず、できる時にできる事を実施し、結果、目標値に達したことは評価できる。成果の背景に各館の創意工夫を感じることができた。 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため休館期間があったにもかかわらず目標を達成できていた。施策が青少年の読書活動の充実を目標にしているため、青少年の利用状況を参考値として出してもらえるとわかりやすい ・コロナ禍でありながら目標値に達することができたことは評価できる。 ・いつもと違う時期に企画を動かせたのは良いと思う。また電子書籍をそろえたのは IT ネイティブである若い世代を取り込むためには必要不可欠だと思う。 ・評価基準に照らし合わせると実績値が目標値に達しており、「5」の評価となる。コロナ禍でも目標値の達成は評価したい。 ・学校との関わり方と広報について、首里図書館と首里中の事例は示唆に富む。
	今後の方向性	4		・YA 世代の活字離れは国全体の課題となっており、その解決に向けた企画、取組、環境づくりなどが全国的に展開している。居場所づくり、学習の場、情報取得の場としての視点から、若い世代の図書館利用促進の仕掛けづくりに努めてもらいたい。令和3年度の成果を見ると学校との連携がキーになっていると考えられる。成果につながった各館の創意工夫を共有するとともに、学校との連携の工夫や中高生のニーズ把握に努め、実効性の高い取組を推進してもらいたい。 ・デジタル世代の青少年に向けて電子書籍サービスを充実させたのは、良い取り組みだと思う。 ・近隣小中学校とコラボ企画は今後も継続してほしい。学校を拡大できると更に良い。沖縄県で高校生の不読が課題になっている。高校生とコラボ企画もできるといいと思います。 ・例えば POP は、一度の企画で数回分の募集をかける（一校に一度をお願いして集まったものを、数か月にわたって週替わりでの掲載にするなど）などして巻き込む生徒数を増やす、誰の POP がいつ掲載されるか募集をかけた学校の生徒にはわかるようにする（知り合いの POP のときは行こうかなという層を入れるため）など、企画に改善できる点がたくさんあると思う。今後も期待しています。 ・青少年へのサービス充実、中高生の読書活動の推進という取り組みは、必要で優先度が高いものとする。一方で、実際に取り組んだコラボ企画がサービスの充実や読書活動の推進につながっているとするには、論理的な飛躍を感じる。サービス充実や読書活動推進の取り組みはコラボ企画以外にもあると思われるので、取り組みの検討・工夫含めて改善を求めたい。 コラボ企画に関わった生徒数や、実施期間における貸出増、展示紹介した本の予約数など、「企画を実施した回数」の評価ではなく、「企画を実施して、得られた効果」を目標値として設定することなども検討してもらいたい。 ・担当者が変わっても企画が継続できるとよい。

施策（事務事業）の進捗管理チェックシート【3】 指標④⑤⑥

点検評価の対象年度		令和3年度			別紙 4-(1)					
課 題		I-3 障がい者サービスの充実			主管 部課	教育委員会				
施 策 名		I-3-(1) 障がい者サービス用資料の充実				生涯学習部 中央図書館				
事務事業名		3. 障がい者サービス用資料の貸出の推進								
施策 (事務事業)	施策の概要等		障がいのある方等へのサービスを充実させるため、デージー図書（文字・音声・画像を再生できる電子図書）や大活字本・朗読CD等資料の充実を図る。 期待される効果として ①障がいのある方々に読書の楽しみを広げていくことができる。 ②視覚障がいのある方のみならず、学習障がいや知的障がいのある方等にも活用することができる。 ③文化・情報面のバリアフリー化を推進することができる。							
			関係法令等 ○図書館の設置及び運営上の望ましい基準(平成24年文部科学省告示第172号) 第二(公立図書館)ー(市町村立図書館)3(図書館サービス) (四)利用者に対応したサービス ウ(障害者に対するサービス) 点字資料、大活字本、録音資料、手話や字幕入りの映像資料等の整備・提供、手話・筆談等によるコミュニケーションの確保、図書館利用の際の介助、図書館資料等の代読サービスの実施							
実際の成果・効果等			◆デージー図書の周知取組 ・学校図書館司書研修会 ・特別支援学級担当者研修会 ※上記研修会でデージー図書の利用方法等の説明チラシを配布。 ◆デージー図書や大活字本等障がい者サービスの周知取組 ・図書館だよりへの掲載(7館中2館) ・特集展示の実施(7館中3館計5回) デージー図書貸出数: 35点(うち学校への貸出数: 16点) 大活字本貸出数: 1,471冊 朗読CD貸出数: 397点							
事業に要した経費			図書資料費……………29,440,622円 (デージー図書) ……37,800円(受入30点うち購入14点) (朗読CD) ……44,000円(受入39点うち購入16点) (大活字本) ……233,341円(受入81冊うち購入78冊)							
実績値	指標名	めざそう値	実績値	前年度実績値	指標名	めざそう値	実績値	前年度実績値		
	④デージー図書貸出数	22	35	33	⑥朗読CD貸出数	200	397	491		
	⑤大活字本貸出数	1,500	1,471	1,566						
点検評価 (内部)	評価の観点	評価	総合評価	内部評価コメント						
	達成度	5	A	3つの指標中、2つにおいて目標値を達成した。						
	今後の方向性	4		障がい者サービスを市民に知ってもらう取り組みとして、デージー図書や朗読CD、大活字本等の展示・特集を行った。また、各館の図書館だよりでデージー図書等の紹介を行った。 今後は、学校の特別支援学級等対象者が利用していると思われる施設への周知活動にも力を入れ、図書館の障がい者サービスの利用につなげる。						

	評価の 観点	評 価	総合 評価	外部評価コメント
	達成度	5	A	・ 3つの指標中、2つにおいて目標値を大きく上回っている。また、達成していない1つの指標も98%の達成率であり、概ね達成と考える。 ・ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止があったにもかかわらず目標を達成できていた。 ・ 目標値を2つの項目で達成できたことは評価できる。 ・ 前年度より目標値を上回ったのはよかったと思う。 ・ 目標値の達成は3分の2、前年度増は3分の1となっており、評価「3」としたい。④と⑥に関しては目標値と実績値の乖離があるが、その説明がなく、判断・評価の正確性に欠ける。せっかく達成している現状もあるため、目標値の設定が低すぎないという説明をぜひ求めたい。また、⑤⑥についても前年度実績よりも下がったことへの評価と対応策の言及があれば、さらに評価が深まると思われる
点検評価（外部）	今後の 方向性	4		・ 学校図書館司書研修会や特別支援学級担当者研修会等におけるデイジー図書周知は、学校を通して、必要としている児童生徒に情報を提供できたと考える。併せて、デイジー図書や朗読CD、大活字本等の展示・特集も効果をあげている。そのノウハウを生かし、必要としている市民の利用施設（特別支援学級等対象者が利用していると思われる施設等）への周知活動にも力を入れていただきたい。また、ユニバーサルデザインのモデルとなる施設を目指したい。 ・ 大活字などは障がい者だけでなく、広く利用者がいると思うので利用につなげられたら良いと思う。 ・ 学校現場でもデイジー図書や朗読CD、音声読み上げなどニーズは高い。学校現場への周知と連携をお願いします。 ・ 今Amazon オーディブルなど、音読サービスが健常者の一部にはうけている現状があるので、朗読CDなどは障がい者だけでなく健常者の方面からの周知もできると思う。 ・ 周りに特別支援を受けているお子さんを持つ知り合いは多くいるがデイジー図書などをご存知の方はほとんどいらっしゃらない。低年齢層から図書館には自分でも楽しめる本があると知らせていくのが必要だと思う。 ・ 実績値がすでに目標値を大きく上回っており、現状の取り組み維持でよい。ただ、課題を障がい者サービスの充実とするならば、現在の取り組みと指標にのみ固執せず、ほかのアプローチの検討や、障がい者が抱えるニーズ調査などの工夫も続けてほしい。それこそ、図書館自体の使い勝手なども含めて、障がいがある人も誰でも利用しやすい環境作り・図書館づくりを進めてもらいたい。 ・ 広報・周知活動を継続することが必要。

施策（事務事業）の進捗管理チェックシート【4】 指標⑦

点検評価の対象年度		令和3年度		別紙 4-(1)	
課 題		Ⅱ-1 多種多様な市民ニーズに対応できる人材の採用・育成		主管 部課	教育委員会
施 策 名		Ⅱ-1-(1) 図書館職員研修の充実			生涯学習部 中央図書館
事務事業名		4. 図書館職員研修の実施及び各種研修への参加			
施策（事務事業）	施策の概要等	司書や一般事務職員に対する研修の企画実施及び他団体主催研修への参加促進等、職員への研修等を充実させ、職員の図書館業務の専門的職務遂行能力を高め多種多様な市民ニーズに対応できる人材を育成する。			
		関係法令等 ○図書館の設置及び運営上の望ましい基準(平成24年文部科学省告示第172号) 第二(公立図書館)一(市町村立図書館)4(職員) (二)職員の研修 ① 市町村立図書館は、司書及び司書補その他の職員の資質・能力の向上を図るため、情報化・国際化の進展等に留意しつつ、これらの職員に対する継続的・計画的な研修の実施等に努めるものとする。 ② 市町村教育委員会は、市町村立図書館の館長その他の職員の資質・能力の向上を図るため、各種研修機会の拡充に努めるとともに、文部科学大臣及び都道府県教育委員会等が主催する研修その他必要な研修にこれら職員を参加させるよう努めるものとする。			
実際の成果・効果等		コロナ禍でWeb配信(オンライン・オンデマンド)の研修が主流となり、国立国会図書館研修や全国図書館大会山梨大会など従来旅費が伴うような研修も、Web配信になり複数名受講することができた。また感染状況が落ち着いた時期に2件の会場開催があった。 他団体主催web研修に各自積極的に参加し、図書館職員としての資質・能力を向上させた。			
事業に要した経費		主催研修なし、WEB研修受講のため要した経費なし。			
指標名・目標値・実績値		指標名		めざそう値	実績値
		⑦研修会への参加人数(参加件数)		90(12)	76(17)
点検評価(内部)	評価の観点	評価	総合評価	内部評価コメント	
	達成度	3	B	参加人数は目標値に満たなかったが前年度を上回った。参加件数は目標値には達したが前年値を大きく下回った。	
	今後の方向性	5		市民ニーズや社会環境の変化に対応した質の高い図書館サービスを提供するため、研修の実施方法や企画内容を検討し計画的な研修を継続して実施する。他団体主催研修への周知を図り、職員の積極的な参加を促していく。	

点検評価 (外部)	評価の観点	評価	総合 評価	外部評価コメント
	達成度	3	B	・参加人数は目標値に満たなかったが前年度を上回った。また、実施件数は目標値に達している。このことから、基準に照らし合わせ、「4」とした。 ・対面研修が減った中、オンラインで研修に参加しやすくなったと思う。その中で、人数が届かなかったのは少し残念だと思った。 ・コロナ禍の影響で研修の機会は少なくなっている中で前年度を上回ることが出来たのは評価できる。 ・Web研修が盛んになり、県外の研修にオンラインでも参加できたのは県外の差をうめるのにとても良かったと思う。 ・内部評価をおおむね支持したい。 可能ならば、研修会への参加人数だけでなく、どんな研修会（内容）でどんな図書館運営につながるかという説明があると尚良い。また、研修を通じて導入した仕組みや企画など（定性的な）指標・評価も検討してもらいたい。
	今後の方向性	4		・市民ニーズや社会環境の変化に対応した質の高い図書館サービスを提供するため、研修は必要不可欠なものとする。研修参加人数が目標値に達せなかった（研修を受けなかった）理由を明確にし、その対策を講ずる必要があると考える。研修の実施方法や企画内容の検討、他団体主催研修への周知を図るとともに、職員が積極的に研修に参加できる環境づくりを促進したい。 ・参加した研修の内容が、一般的に司書の教養を磨くためのものが多かったが、県庁所在地の図書館の職員としては、長期研修などにも参加し、長い目で図書館に貢献できる人材づくりを視野に入れるとよいと思う。 ・研修の開催方法についてオンラインやオンデマンドの活用等、時代に即した工夫が必要になってくる。今後も職員の専門性の向上に努めてください。現時点で拡大は難しいのではないかと。 ・研修もよいが、ニーズ（例えば勉強スペース）とそれを実現できない理由（容積が小さい）があるのなら、同じような条件でニーズを満たす工夫をしている県外の図書館などに積極的にコンタクトを取って学んでいくことも必要だと思う。 ・図書館というハコや蔵書数などハード面も大切だが、図書館サービス、市民ニーズへの対応となるといかに人材を育てるかが重要となる。職員の役割や役職に応じた効果的な研修を計画し、積極的に参加できる環境づくりを進めてほしい。

施策（事務事業）の進捗管理チェックシート【5】 指標⑧

点検評価の対象年度		令和3年度		別紙 4-(1)	
課 題		Ⅱ-1 多種多様な市民ニーズに対応できる人材の採用・育成		主管 部課	教育委員会
施 策 名		Ⅱ-1-(2) 図書館職員体制の充実			生涯学習部 中央図書館
事務事業名		5. 図書館職員体制強化の推進			
施策 (事務事業)	施策の概要等	専門職である司書を配置し、管理運営及び職員体制の充実を図ることで、多種多様な市民ニーズに対応できる人材を育成する。			
		関係法令等 ○図書館法 第四条 図書館に置かれる専門的職員を司書及び司書補と称する。 2 司書は、図書館の専門的事務に従事する。 3 司書補は、司書の職務を助ける。 ○図書館の設置及び運営上の望ましい基準(平成24年文部科学省告示第172号) 第二(公立図書館)一(市町村立図書館)4(職員) (一)職員の配置 ②市町村教育委員会は、市町村立図書館が専門的なサービスを実施するために必要な数の司書及び司書補を確保するよう、その積極的な採用及び処遇改善に努めるとともに、これら職員の職務の重要性にかんがみ、その資質・能力の向上を図る観点から、第一の四の②に規定する関係機関等との計画的な人事交流(複数の市町村又は都道府県の機関等との広域的な人事交流を含む。)に努めるものとする。			
実際の成果・効果等		司書による専門的な知識・技術に基づく指導助言を得ることで職員の資質・能力の向上が図られ、市民サービスの充実が図られた。			
事業に要した経費		特になし			
指標名・目標値・実績値		指標名		めざそう値	実績値
		⑧職員の司書有資格者数		43	45
点検評価 (内部)	評価の観点	評価	総合評価	内部評価コメント	
	達成度	5	A	実績値が目標に達した。	
	今後の方向性	4		継続して各館に司書を配置し図書館職員体制を維持する。専門的な知識・技術を発揮し、職員の育成と図書館サービスの充実を図る。司書有資格者配置の要望を行っていく。	

点検評価 (外部)	評価の観点	評価	総合 評価	外部評価コメント
	達成度	5	A	・実績値が目標に達しており、基準に基づき「5」とした。 ・有資格者が目標値に達している。この先も有資格者での運営を目指してほしい。 ・実績値が目標に達しており評価できる。 ・そもそも前年度実績を下回る目標値をたてる意味がない。 ・実勢値を達成しているため評価「5」である。 一つ注文するならば、前年度から減った理由や目標値接待が43人を維持する「横ばい」の理由を内部評価コメントなどで言及してもらいたい。
	今後の方向性	4		・関係法令にあるように図書館が専門的なサービスを実施するために必要な数の司書及び司書補を確保しなければならない。目標値は達しているが、有資格者43名の目標値が今後の図書館サービスに十分な数値であるか等検証しながら、今後とも、司書有資格者配置を積極的に進めてもらいたい。少なくとも現状維持は必要と考える。 ・有資格者の採用、採用された司書の育成に努めてほしい。 ・各図書館への司書の配置をお願いします。学校図書館経験の司書も配置されておりよりよい連携ができています。 ・司書補にも勤続年数が条件を満たした方には司書の資格を取得するよう促しているのでしょうか。さらなるサービス向上のためにも、専門知識のある職員が増えることは望ましく感じます。 ・目標値を上回っており、現状の維持でよいため評価「4」とする。 内部評価コメントに「司書有資格者配置の要望を行っていく」という部分について、拡大か現状維持なのか判断できないため、このコメントについては丁寧な表現を求めたい。

施策（事務事業）の進捗管理チェックシート【6】 指標⑨

点検評価の対象年度		令和3年度		別紙 4-(1)	
課 題		IV-1 読書推進のための学習機会の充実		主管 部課	教育委員会
施 策 名		IV-1-(2) 職場体験等（小中高）の受入の推進			生涯学習部 中央図書館
事務事業名		8. 職場体験等（小中高）の受入件数			
施策 （事務事業）	施策の概要等	公共図書館の果たす役割や業務内容を広く理解してもらうため、また子どもの読書活動を継続的に推進するため職場体験の受入を実施する。 関係法令等 ○図書館の設置及び運営上の望ましい基準(平成24年文部科学省告示第172号) 第二（公立図書館）ー（市町村立図書館）3（図書館サービス） （四）利用者に対応したサービス ア（児童・青少年に対するサービス） 児童・青少年用図書の整備・提供、児童・青少年の読書活動を促進するための読み聞かせ等の実施、その保護者等を対象とした講座・展示会の実施、学校等の教育施設等との連携 （五）多様な学習機会の提供 ① 市町村立図書館は、利用者及び住民の自主的・自発的な学習活動を支援するため、講座、相談会、資料展示会等を主催し、又は関係行政機関、学校、他の社会教育施設、民間の関係団体等と共催して多様な学習機会の提供に努めるとともに、学習活動のための施設・設備の供用、資料の提供等を通じ、その活動環境の整備に努めるものとする。			
		職場体験は多良間中学校の生徒1人を中央図書館で2日間受け入れた。 施設見学は近隣小学校やこども園から中央図書館が1件、若狭図書館が1件、石嶺図書館が5件、繁多川図書館が2件受け入れた。 通信教育で資格を取った方の就業体験として繁多川図書館で1人受け入れた。 昨年度に引き続き令和3年度も新型コロナウイルスの影響によりインターンシップ依頼が中止となるケースもあった。国の緊急事態宣言沖縄県適用解除以降の11月から12月中旬に受け入れることができ、図書館業務の周知を行うことができた。			
事業に要した経費		事業に要した経費なし			
指標名・目標値・実績値		指標名	めざそう値	実績値	前年度実績値
		⑨職場体験等（小中高）の受入件数	60	11	10
点検評価 （内部）	評価の観点	評価	総合評価	内部評価コメント	
	達成度	3	B	目標値を大きく下回った。 令和3年度も前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響で職場体験の依頼が例年に比べて少なかった。また、施設見学については市立図書館の臨時休館もあり、感染状況を見ながら受け入れを行っていた状況であった。	
	今後の方向性	4		引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響が予想されるが、withコロナの状況の中で感染対策を取りながら、職場体験等の申し出には積極的に応え、児童生徒に公共図書館の果たす役割や業務内容を広く理解してもらう機会の提供に努める。	

	評価の観点	評価	総合評価	外部評価コメント
	達成度	3	B	・目標値を大きく下回ったが、前年度実績と同水準である。そこで基準に基づき「3」と評価した。 ・前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響で、各学校の同事業への参加が制限されたことや市立図書館の臨時閉館の結果と考えるとやむを得ないとする。 ・数値だけで見ると大きく下回っているため基準と照らして、この評価になった。しかし、職場体験は申し込みがあって受け入れるという段取りなので受け入れの数値が指標になることに疑問がある。 ・職場体験のニーズが減少している中、目標値を下回することは致し方ない。施設見学も同様である。 ・実質動けたのは2カ月のみなので、実績値 $11 \times 12 / 2$ をすれば目標値をうわまわるので、実施できた月はよく活動ができたと思う。 ・目標を大きく下回っている。協議会で説明、委員からの言及があったように、申し込みに対する対応・受け入れという外的要因による実績となるため、やむを得ない事情と理解はできる。
点検評価（外部）	今後の方向性	4		・引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響が予想されるが、各学校のコロナ対応も変化していくと予想されるので、感染対策を取りながら、職場体験や施設見学等の申し出には積極的に応えてもらいたい。まずは、児童生徒に公共図書館の果たす役割や業務内容を広く理解してもらう機会の提供としてのこの事業の実施・継続に努め、コロナ前の水準に戻るよう周知を図りたい。 ・事業については希望があれば受け入れるが、数を増やす努力をするものではないので見直してもよいと思う。 ・今後も職場体験のニーズや施設見学に応じてください。小学生にもわかるような図書館の教材・資料があると良い。 ・さりとて学校の職場体験などは動きやすい月があり、上記2か月のような動きが6セットできるわけではない（4月、3月など）うえ、新型コロナや他の事情で受け入れが困難な時期もあると思うので、受付から受け入れをスピーディにする方策を打つなどが必要だとは思いますが、来年度は目標値を達成できると思う項目だし、職場体験などで図書館を知ってもらう良い機会にもなると思うので頑張ってもらいたい。 ・コロナ禍で2年連続での低調という説明があった。職場体験は図書館の業務や魅力を伝える効果的な手段であるため、まずはコロナ前の水準を目指すか、もしくはある程度形を変えた新たな受け入れ方法の模索も進めてもらいたい。 ・課題である「読書推進のための学習機会の充実」の改善を目指すのか、コメント中の「児童生徒に公共図書館の果たす役割や業務内容を広く理解してもらう機会の提供に努める」のかでアプローチは異なるが、図書館の仕事をまとめた映像を作る、ZOOM も含めた職場見学会など、様々な取り組みを検討してもらいたい。

2021 年度「めざそう値」の達成度等の点検評価のまとめ

「『那覇市立図書館』運営の基本的な考え方」の施策の進捗管理として、下記のように「指標」と「めざそう値」の設定、評価点検を行ってきた。

2010 年度～	指標・めざそう値の達成度等の点検評価を毎年度実施
2015 年度	2015 年度から 2019 年度までの指標とめざそう値を新たに設定。
2019 年度	2020 年度から 2024 年度までの指標とめざそう値を設定。
2020・2021 年度	コロナ禍のため 2019・2020 年度の外部評価が実施できず内部評価のみ実施。

【評価の概要】

2021 年度「めざそう値」の達成度等の点検評価のまとめ					内部 評価	外部 評価
指標名	めざそう値	実績値	達成率			
1	資料・情報提供サービスの充実				C	C
	①来館者数（来館率）	476,800（1.49）	213,536（0.67）	0.45（0.45）		
	②レファレンス（調査相談）件数	1,660	589	0		
2	中学生・高校生の読書活動の充実				A	A
	③中学生・高校生向けの企画実施件数	4	4	1		
3	障がい者サービス用資料の充実				A	A
	④デイジー図書貸出数	22	35	2		
	⑤大活字本貸出数	1,500	1,471	1		
	⑥朗読CD貸出数	200	397	2		
4	図書館職員研修の充実				B	B
	⑦研修会への参加人数（参加件数）	90（12）	76（17）	0.84（1.42）		
5	図書館職員体制の充実				A	A
	⑧職員の司書有資格者数	43	45	1.05		
6	職場体験等（小中高）の受入の推進				B	B
	⑨職場体験等（小中高）の受入件数	60	11	0.18		

2021 年度はコロナ禍の影響で、133 日～108 日間の臨時休館や入館制限等があり、めざそう値を達成した指標は 4 つ、未達成は 5 つという結果になった。また、上記の指標や当該事務事業の必要性について、総合評価を実施した。内部評価及び外部評価ともに、A 評価が 3 項目、B 評価が 2 項目、C 評価が 1 項目、D・E 評価は 0 項目であった。

【評価の総括】

総合評価において、「C」評価になった「1-1-(1)資料・情報提供サービスの充実」については、より重点的な取り組みが求められる。また、コロナ禍による開館制限で目標達成が困難な指標や、達成した値が目標値と乖離した指標は、めざそう値を見直す必要があると考える。

評価結果に関わらず、指標ごとの課題については、今後も改善に向けて取り組む必要がある。